

アピール文（案）

昭和 11 年に篤志家・間島弟彦氏の寄付によって建てられ、昭和 49 年に現在の中央図書館が新設されるまで長く市民に親しまれた旧鎌倉図書館を解体する予算が昨年 12 月の鎌倉市議会で可決され、来年度中にはプレハブ庁舎に建て替えられようとしています。

この件については、市民や議会への事前の説明はなく、また耐震診断ならびに歴史的建造物に対する評価手続きを経ることもなく、庁内会議の議論だけで結論を出すという経過について、議会のなかでも多くの疑問が出されたところです。

旧図書館は建設された経緯やその後の図書館と市民の交流の歴史を鑑みると、目に見える形で近代鎌倉の歴史と文化をたどることができる貴重な建造物といえます。

こうした歴史的建造物を安易に取り壊しプレハブに建て替えることは、鎌倉固有の歴史的景観を損ない、市自身が掲げる「歴史的遺産と共生するまちづくり」というコンセプトにも反するものではないでしょうか。

また、旧図書館を含む市役所が位置する一帯は地下に古代・中世の遺構が眠っており、これらの遺跡の保存と狭隘化する市庁舎の再構築についての将来的な見取り図もなしに、その場しのぎの建て替えはなすべきではないと考えます。

以上のような観点から、旧図書館の取り壊しはいったん中止し、旧図書館の歴史的・文化的意義についての検証を行い、ひいては今後の「歴史まちづくり」のあり方について考える市民や専門家を交えた議論の場を設けることを強く要望します。

2015 年 2 月 1 日

緊急シンポジウム「旧図書館の保存・活用を求めて」参加者一同